

'93 KURASHIKI SUMMER JAZZ FESTIVAL '93/7/28 WED



July, 1993

Dear members and fans of the 3rd annual
Summer Jazz Festival in Kurashiki;

This is our 3rd big event in Kurashiki with my good friends
Dai Sensei & The Count Herd Jazz Orchestra.

The show this year is fantastic with "CLARINET SUMMIT" and
the "MEL BROWN QUINTET featuring CHUCK FINDLEY".

This year I started a diet. I have to lose 140 kilo by August 1st,
1994, I am counting on all of you for moral support.

See you in 1994 with hopfully good result.

Sincerely,



Bill Lutt
Chief Executive Officer
World Projects Corporation



ごあいさつ

本日、ここに第3回目の『'93 KURASHIKI SUMMER JAZZ FESTIVAL』が、開催されることを誠に光榮に思っております。

又、市内外より当フェスティバルにご参加下さいました皆様、そして、今年もお越し頂きました方々、本当に有り難うございます。

今回は、日本・アメリカ・オーストラリアを代表するクラリネットの奏者が集い、火を吹くようなバトルを繰り広げる『クラリネット・サミット』をメインに、先頃亡くなったモダン・ジャズの創始者『デイジー・ガレスピー』を敬慕するアメリカ西海岸のジャズ・ミュージシャンがメル・ブラウンのもとに集い、『Bye Bye Dizzy Band』を結成し、追悼公演で来日することになり、このフェスティバルに参加することになりました。

勿論、我々の Cout Herd Jazz Orchestra も大森 明氏を特別ゲストに迎え、全員でステージを盛り上げて参ります。

倉敷の真夏の夜の一時を、エキサイティングなサウンドとプレイヤーとお客様が一体となった会場で、存分に楽しんで頂ければ幸いと存じます。

又、このことが、地方文化の一役を少しでも担うことができれば、大変に有り難いことと存じます。

そして、開催するに当たり、ご協力下さいました皆様に大変感謝を致します。どうぞ最後まで、お楽しみいただきますよう念願致しております。

ありがとうございました。

合 掌

28th. Jul. 1993

'93 KURASHIKI SUMMER JAZZ FESTIVAL

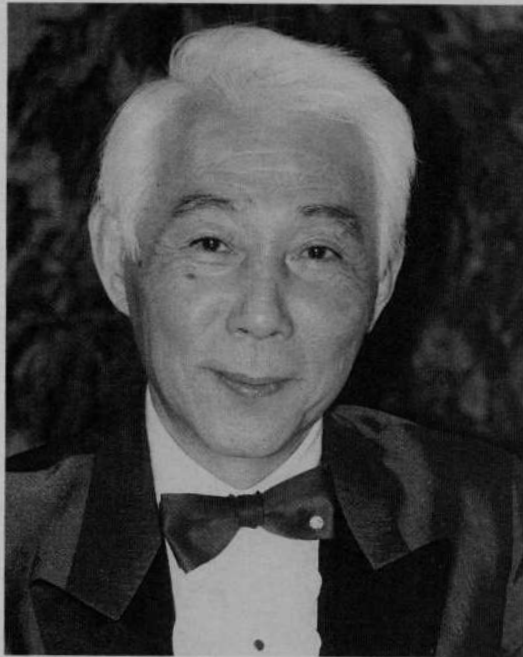
実行委員会 代表

松井 大園

DAIEN MATSUI

Clarinet Summit

日本・アメリカ・オーストラリアを代表するクラリネットの奏者が集い、火を吹くようなバトルを繰り広げる「クラリネット・サミット」。ジャズ・ビギナーにも親しみやすい、お洒落なスイング・ジャズのメロディーと、マニアをもうならせるスーパー・ハイレクニック・アドリブが、同時に楽しめる夢の共演です。



Eiji Kitamura (JPN)

Eiji Kitamura (北村英治)

1929年東京生まれ、慶応大学在学中に、クラリネットを学び同大学の仲間とジャズに熱中。1951年、南部三郎クインテットでプロデビュー、守安祥太郎などのコンボを経て、自己のバンド、キャッツ・ハードを結成する。その後、小野満の傘下に入団。

'57年文化使節として来日したベニー・グッドマンとジャム・セッションを行い、パディ・デフランコやリー・コニッツも研究する一方、ジャズ伝統のデキシーも自分のものとし、幅広い音楽性を身に付けた。

77年20周年を迎えたモンタレージャズ祭に招かれ、オールスタージャムに出演、大好評を博し、その実力は世界に知れわたることとなった。以来、同ジャズ祭には92年まで連続出演。80~83年コンコード・ジャズ祭、85年、91年マウントフッド・ジャズ祭86年国際クラリネット協会のコンファレンスに日本人として初出演、92~93年オーストラリア、クインズランド・ジャズ祭と、国際的スタートして世界を飛び回る。

91~93年、L.Aインターナショナル・ジャズパーティーに出演、「北村のクラは今なお前進している。ジャズ・クラリネット界の沈滞を救った男だ」(米国評論家レオナード・フェザー)と絶賛される。

音楽以外にも料理通とし、またニュースキャスターとしてTVで活躍、その含蓄の深さと古典落語にも通じる軽妙で人の気をそらさない語り口が人気。

John Denman (USA)

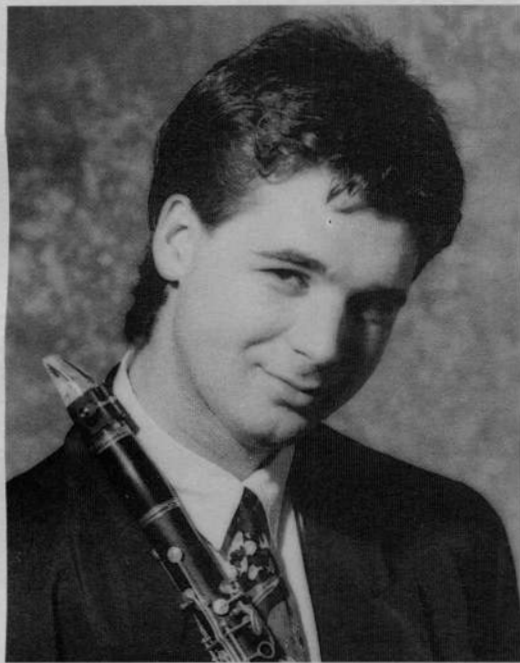
JOHN DENMAN (ジョン・デンマン)

イギリスの音楽的環境豊かな家庭に生まれ、6才でピアノを、8才でクラリネットを始め。15才で王室近衛騎兵連隊に入隊、王室交響楽団に所属し、クラリネットの様々な難曲をものにす。その後、首席クラリネット奏者として、ロンドン交響楽団、王立交響楽団などイギリスの名だたるオーケストラと共演。これまで30年間に渡ってBBC放送での出演・演奏、アメリカ、ヨーロッパ、オーストラリア、カナダ、メキシコ、日本などでのコンサート・ツアーを続ける。

1981年、中国文化賞の招聘で北京中央音楽学院において客員教授をつとめ、現地の中央交響楽団との共演も果たした。

クラシックとジャズの両面で成功を収めている数少ないプレーヤーの一人。様々なオーケストラ、室内楽団との共演のレコーディング作品はフィンツィやシュタミッツのコンチェルトも含め膨大な数にのぼり、その中には夫人であるポーラ・ファンと共演のブラームスやレーガー、メンデルスゾーンのリヴァイタルもある。





Andrew Firth (AUS)

ANDREW FIRTH (アンドリュー・ファース)

1966年オーストラリア・オーガスタ生まれ。4才より音楽教育を受け5才でクラリネットを始める。地元の音楽家ロン・ティルに師事して才能を伸ばし、12才ですでにプロとして活動していた。1984年アデレード芸術教育大学に入学、ジャズの理論と奏法の研鑽を積み、初めての自身のバンド、B.B.Cトリオを結成、南オーストラリアNo.1の人気グループとなる。同時期より編曲を学び始める。

1986年、ボンディ・ビーチ・ジャズ・サミットに出演、ベニー・グッドマンの「チャイナ・ボーイ」、ハイスクール時代から親交のあったドン・パロウズ等とともに、チャーリー・パーカーの「ナウズ・ザ・タイム」を演奏し、その模様がTVオン・エアされて大反響を呼び、飛躍的な成功を収める。その後シドニーに拠点を置き、ドン・パロウズのほかジョージ・ゴラ、リッキー・メイ、ガラパゴス・ダック、エド・ガストン、ジョン・モリソンらオーストラリアの名だたるプレイヤーたちと肩を並べ活動するようになる。

1987年ドン・パロウズの勧めでシドニー音楽院ジャズ上級コースで木管楽器の講師に就任。同時にオーストラリア中の主だったナイト・クラブ、ジャズ・スポットにも出演し始める。



塚原 小太郎(P)

1952年8月、東京に生まれる。幼少の頃よりクラシック・ピアノを学び、東京芸大付属音高を卒業するが、19才のときジャズにとりつかれて

からはジャズ一筋。吉田多宏クワルテット、小西徹トリオ、森寿男とブルーコート、藤家虹二クインテットなどのピアニストを務めながら自己のトリオを作り活動。

水森亜土、夏木マリ、江森徹、日下武史、手塚理美、加賀武史等の出演する演劇の音楽への参加、TV主題歌「遠くへ行きたい」(日本テレビにて半年契約)の編曲など幅広く活動している。

最近、北村英治、増出一郎、高橋達也、猪俣猛などジャズ界大御所との共演、「ラ・メゾン・ドゥ・ムジク」の完成にともなって、ジャズ共和国国民を迎え入れられたりと注目を集めている。



渡辺 毅(Ds)

1952年6月東京生まれ。青山学院在学中からジャズ研に入り、ジャズ・ドラムスを学んでいた。73年に甲斐恵美子のグループで

ソロとなり、傍ら日野元彦に師事して、ジャズのモダン展開をはぐくんだ。以後、本多俊之(G)、鈴木勲(G)ほか数多くのモダンコンボに参加。81年より北村英治オールスターズに参加、今日に至る。北村英治のスイング・セッションにいつもドラミングを担う「お気に入りドラマー」であり、その柔軟な音楽性を高く評価されている。



宮之上 貴昭(G)

1953年10月東京生まれ。10才のころから独学でギターを始め、都立武蔵野高校卒業後、米軍横田基地の中の「N.C.Oクラブ」で

ジョー・デイベス(org)、ジェリー・エディ(ds)のトリオ「ニュー・グループ」で三年間演奏する。

88年には、インドで開かれるジャズ・フェスティバル「ジャズ・ヤトラ」に日本代表として出演、大好評を得る。現在ではスモーキンのほかに北村英治スーパー・クインテットに参加、モンタレー・ジャズ・フェスティバルなどに出演し、世界的に活躍している。ピックを一切用いず親指一本で豪快に弦を弾くオクターブ奏法は、宮之上スタイルを築き上げ彼の率いる「スモーキン」も4ビートの伝統にしっかり根ざしており、全国に熱狂的信奉者を多数もつ。



Mary Stallings (Vol. USA)

カリフォルニア州出身。8才より教会で歌い始め、叔父であるサクソフォーン奏者オーランド・スターリング

グスの支援を受けて自己のジャズスタイルを発展させ、10代半ばには叔父オーランドの

バンドに参加し、ベイ・エリアのナイト・クラブで活動を始める。その後ルイス・ジョーダン・ティンパニー・ファイヴ、アーリー・ハynes・ベイ・エリア・バンドなど数多くのセッションに参加。ディジー・ガレスピーとの共演。また長年に渡りカウント・ベイシー・バンドのメンバーとして活躍。

現在、サンフランシスコ・ジャズ・フェスティバル'90など様々なイベントに出演している。

卓越した歌唱スタイルの持ち主にして詩の豊かな表現者であり、スキヤットを用いない真のジャズ・シンガーである。



浅見 嘉則(B)

1952年東京生まれ。特待生として東京芸大弦楽器コントラバス科に入学。クラシックを基礎からみっちり学ぶ。卒業後、以前から演奏

していたジャズのベーシストとしてプロ入り。パイプの増田一郎カルテットに長年在籍。ベースの大御所レイ・ブラウンに直接師事し、タイム感やリズム、オブリガードといった秘伝を直接伝授される。現在はスモーキンのほかに北村英治クインテットに在籍。

MEL BROWN & Bye Bye DIZZY BAND

アメリカ・西海岸を中心に活躍するジャズ・ドラマーのメル・ブラウンは、テンプテーションズ、シュープリームズ、ダイアナ・ロスなどのポップスの一流バンドのドラマーとしても著名である。この度、先頃亡くなった「モダンジャズの創始者 テイジー・ガレスピー」を敬慕するアメリカ西海岸のジャズ・ミュージシャンがメル・ブラウンのもとに集い、「Bye Bye Dizzy Band」を結成し、チャック・フィンドレー(Tp)を特別ゲストに迎え、ガレスピーの追悼日本公演を行うことになった。



Mel Brown(Ds)

MEL BROWN (メル・ブラウン)

ポートランド州立大学、パークレイ音楽大学卒業。ドラムをフリー・ジョー・ジョーンズに学ぶ。1964年ビリー・ラーキン&テレゲイツのアルバム「ビッグミー」に参加。65年から66年にかけてアール・グラントのバンドに参加し、68年よりモータウン社の専属プレーヤーとなり、以来88年までマーヴィン・ゲイ、スモーキー・ロビンソン、テンプテーション、シュープリームズ、ヴァレリー・シンブソンらモータウンのスター達のレコーディングに数多く参加している。ダイアナ・ロスのドラマーとして特に有名である。

自身のバンド、メル・ブラウン・セクステットは、オター・クレスト、マウント・フッド、モンタレー、モンリオールなど様々なジャズフェスティバルに出演しており、アメリカ北西部音楽協会よりベスト・ジャズ・バンドに、アルバム「ゴードン・ブルー」はベスト・アルバムに選ばれた。

リッチー・コール、フランク・シナトラ、ディーン・マーティンのステージ、ビートルズ、ロバータ・フラック、ポピー・タイラーなどのレコーディングに参加する多彩な活動ぶりから「音楽家の中の音楽家」「ロックとソウル、ジャズとブルースにおける世界的ドラマー」の異名を持つ。

Chuck Findley(Tp)

CHUCK FINDLEY (チャック・フィンドレー)

1947年ペンシルバニア州ジョーンズタウン出身。音楽家の家庭に育ち4才でトランペットを、11才でトロンボーンを始める。高校卒業後、クリーヴランド音楽大学に特待生として入学。パーナード・エーデルシュタインに師事する。

古くよりリー・キャッスル、ドーズィー・ビッグ・バンドと共演しており、バディ・リッチ・バンドに参加しアメリカ、ヨーロッパ、アジア各国で公演している。

1968年以来、ベニー・グッドマン、ポピー・シュウ、マイルス・デイビス、フランク・シナトラ、バーブラ・ストライザンド、ダイアナ・ロス、ナタリー・コール、アース・ウィンド&ファイヤー、ローリング・ストーンズ、マドンナ、プリンス、マイケル・ジャクソンなどジャズ、ロックのビッグ・アーティスト等のレコーディングに数多く参加している。

また、「ゴードファーザー I・II」、「ラスト・タンゴ・イン・パリ」、「ロッキー I・II・III」、「バック・トゥ・ザ・フューチャー」をはじめとする数々の映画音楽、クライスラー、フォード、コカコーラ、マクドナルド、ペプシコーラ、三菱、トヨタなどTVでおなじみのさまざまなCM音楽に参加している。

音楽産業における、彼のこうした活動・業績に対して、1980年、国立レコード芸術・技術アカデミーは、同アカデミー栄誉賞を授与した。

「(チャックは) 聞けばすぐ彼とわかる独特の音色をもっている。演奏スタイルはいかにもジャズらしいと同時に実に暖かみがあり、どんな曲もこなしてしまう驚くべきオールラウンドプレイヤーだ。」(ヘンリー・マンシニ)



Donny McCaslin

DONNY McCASLIN (Sax) (ドニー・マックカスリン) 1966年8月11日カリフォルニア州サンタ・クリア出身。ヴィブラフォン奏者である父ドン・マックカスリンより幼いころからジャズの手ほどきを受け、高校生の頃には父のグループに加わり本格的な活動をしていた。

1988年、クウンバ・ジャズ・センターで22才の若さでゲリー・パートン・クインテットと共演。彼の演奏の懐の深さは、パートンの、うねり波打つような甘美さとは好対象をなし、要所を押さえた確かな演奏は、若手に有りがちなナルシスティックな誇張とは一線を画しており、ソリストとしての将来が囑望されている。



Tim Gilson

TIM Gilson (B) (ティム・ギルソン)

ポートランド州立大学器楽科学士課程卒業。ベースをケン・ポルドウィン、ジョン・クレイトンらに師事。

'85、'86年のマウント・フッド・ジャズ・フェスティバルでメル・ブラウン、北村栄治らと共演。メル・ブラウンのベーシストとしてその後'88年のギグ・ハーバー・ジャズ・フェスティバルや、'90年のモンタレー・ジャズ・フェスティバルなどで数多く共演している。



Smith Dobson

SMITH DOBSON (P) (スミス・ドブソン)

1947年生まれ。幼少時より母親にハーモニーの訓練を受け、ジャズピアニストでアコーディオン奏者の父の影響で早くから演奏活動を始める。サンフランシスコ州立大学、太平洋大学へ進んだ後ネヴァダ・カジノ・サーキットでショーバンド・ピアニストを務める。

スミスは自己のバンドにおいてアレンジャー、ピアニスト、シンガーの三役をこなす西海岸の主なジャズ・スポット全てに出演している。

AKIRA OHMORI

(A.SAX) 福岡県出身

AKIRA OHMORI (A.Sax)
国立音大を卒業。1974年パークレ
ー大学で音楽を学ぶため渡米。卒業後
ニューヨークに住み、Dizzy Gillespie,
Sonny Stitt, Lee Conitらと仕事をし、ま
た1979年と1982年にはニューポ
ート・ジャズ・フェスティバルに参加、
彼は1979年 Charlie Mingus のラスト
アルバムに収録されたミュージシャ
ンの一人です。オオモリは Ron
Carter と Leroy Williams をバック
メンバーとし最初のアルバムである
“To be Young and Foolish” をリリ
ース。1984年に帰国しいくつかのアル
バムをプロデュースしスウィ
ング・ジャーナル賞を受賞。



'92.8.4・第2回



COUNT HERD JAZZ ORCHESTRA

MEMBER

A.Sax
西省二 SHOJI NISHI
倉敷市玉島

A.Sax
牛尾隆志 TAKASHI USHIO
岡山市

A.Sax
村上千佳子 CHIKAKO MURAKAMI
倉敷市白楽町

T.Sax
竹内一裕 KAZUHIRO TAKEUCHI
倉敷市児島

T.Sax
遠藤 浩 HIROSHI ENDO
倉敷市山地

B.Sax
小川秀憲 HIDENORI OGAWA
倉敷市北浜町

Trumpet
小林善美 YOSHIMI KOBAYASHI
倉敷市老松町

Trumpet
山本幸夫 YUKIO YAMAMOTO
倉敷市大島

Trumpet
大嶋成幸 SHIGEYUKI OSHIMA
倉敷市玉島

Trumpet
小峠光生 MITSUO KOTOHGE
倉敷市黒崎

Trumpet
手嶋尚律 HISANORI TESHIMA
倉敷市田上

Trumpet
千田精志 SEISHI SENDA
倉敷市庄

Trombone
井上 充 MITSURU INOUE
倉敷市玉島

Trombone
石口 俊 SHUN ISHIGUCHI
倉敷市児島



BAND MASTER TRUMPET
松井大圓 DAIEN MATSUI
倉敷市阿知

国立音楽大学卒業後、高野山大学卒業
音楽、トランペット、人、色々な出会い、それは人の世の
不思議、大自然の不思議、それは仏縁 …一切に感謝を…

Trombone
西岡 忠 TADASHI NISHIOKA
倉敷市加須山

Drum
藤井正明 MASAOKI FUJII
岡山市

Piano
亀山希依子 KEIKO KAMEYAMA
倉敷市中央

Piano
松本加代子 KAYOKO MATSUMOTO
倉敷市西岡

Piano
笹木 収 OSAMU SASAKI
岡山市

Guitar
徳田 昇 NOBORU TOKUDA
真備町岡田

Bass
朝倉宏樹 HIROKI ASAKURA
備前市新庄

Perc.
高杉彰博 AKIHIRO TAKASUGI
真備町



'91-8-7 フローラルコート

Part I

**COUNT HERD
JAZZ ORCHESTRA**

DAIEN MATSUI (Tp)
AKIRA OHMORI (A.Sax)



Part II

**MEL BROWN &
Bye Bye DIZZY BAND**

MEL BROWN (Ds)
CHUCK FINDLEY (Tp)
DONNY McCASLIN (Sax)、TIM GILSON (B)、SMITH DOBSON (P)

Part III

日・米・豪 CLARINET SUMMIT

EIJI KITAMURA (JPN)
JOHN DENMAN (USA)
ANDREW FIRTH (AUS)
MARY STALLINGS (Vol)、KOTARO TSUKAHARA (P)、TAKAAKI MIYANOUE (G)
TSUYOSHI WATANABE (Ds)、YOSHINORI ASAMI (B)

Part IV

All Members JOINT

古色彩るアイビーは静かで優しいメモリーゾーン

清らかな流れに赤れんがが影をおとす1,300㎡の「ひろば」。
ここは、すべての人に自由な舞台です。



大原美術館へ徒歩3分

つたの広場、赤れんがのホテル

倉敷アイビースクエア

〒710 倉敷市本町7-2 TEL (086) 422-0011

ファックス (086) 424-0515 テレックス5933-189

〈大阪営業所〉

〒541 大阪市中央区久太郎町2丁目1番27号 幸ビル5F

TEL (06) 261-2802 FAX (06) 266-9172

多彩な個性、BMW3シリーズ。

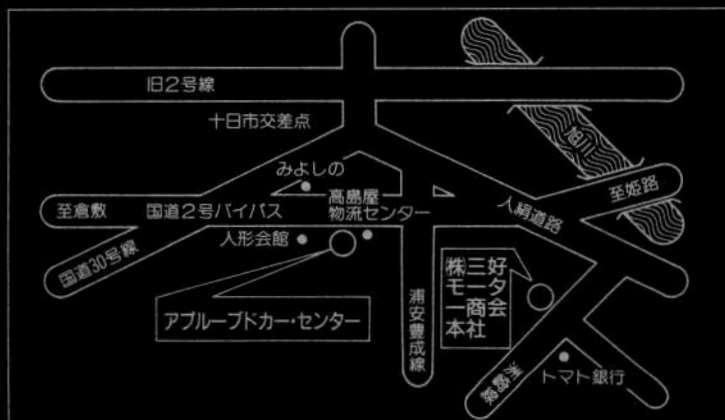
走る歓びの、フルラインアップ。



Photo:325iカブリオーレ

モデル	車両本体価格(円)	モデル	車両本体価格(円)
318i 4ドア AT 右ハンドル	3,850,000	New 318is クーペ 2ドア AT 右ハンドル	4,240,000
320i 4ドア AT 右/左ハンドル	4,520,000	320i クーペ 2ドア AT 右/左ハンドル	4,820,000
325i 4ドア AT 右/左ハンドル	5,330,000	325i クーペ 2ドア AT 右/左ハンドル	5,480,000
		New 325i カブリオーレ 2ドア AT 左ハンドル	6,250,000

- 車両本体価格は、消費税(4.5%)、その他の税金、保険料、登録等の諸費用(消費税3%)等を含まない小売現金価格です。
- 全車(M3クーペ、M5を除く)オートマチック・トランスミッション仕様となります。●価格、諸元、装備等は予告なく変更することがあります。
- ※325iカブリオーレ：'93年9月発売予定 ※M3クーペ：'94年3月発売予定



BMW Japan 正規ディーラー

株式会社 三好モーター商会

本社ショールーム

〒702 岡山県岡山市福成2-24-11

TEL.(086)262-1500

サービス受付

TEL.(086)262-1502

アブルーブドカー・センター

〒700 岡山県岡山市豊成3-1-104

TEL.(086)265-5100





WORLD PROJECTS
International Music Productions



■STAFF

Thanks thanks thanks.....our staff!!

KURASHIKI IVY SQUARE
STAGE OKAYAMA
SHINKO PRINTING CO.,LTD.
WORLD PROJECTS BILL RATT, DAVE MURRAY
WORLD PROJECTS JAPAN YOSUKE KUROSAKA

■実行委員会

TERUAKI MATSUMOTO KAZUO TAKAYOSHI
ISAO KAMOI MASAO IMAI
DAIEN MATSUI
SHOJI NISHI MITSURU INOUE
KAZUHIRO TAKEUCHI